

# アカデミック・セントラル通信

No.1 令和四年三月

## 教育基盤統括本部（以下「アカデミック・セントラル」という。）では、アカデミック・セントラルへの期待

松尾 清一

アカデミック・セントラル通信を通じて、東海国立大学機構（以下「機構」という。）の教育改革を発信していきます。

初回は、松尾機構長から、アカデミック・セントラルへの期待を寄稿いただきました。また、あわせて、アカデミック・セントラルの役割、重点推進施策、組織、主な取組を紹介します。



東海国立大学機構長 松尾 清一

「アカデミック・セントラル」を教育の共通理念として掲げ、学生が身につけるべき新たな力を「考え抜く力」「進める力」「伝える力」と位置付け、これらの力を育成するための取組を進めており、こ

の理念に基づいた教育を創造・推進するためにアカデミック・セントラルを設置しました。アカデミック・セントラルは、機構における教育のヘッドクォーターとして、機構の枠組みを活かした教育資源・成果の共有を進め、互いのメリットを活かした教育改革を推進することを期待しています。また、教育分野における東海地域のエンジンとして、様々な人が集まり、知の結集を図って世界に羽ばたくことを支援する基盤となることを期待しています。

第一は、「学修者本位の教育」を実現するため、教育体系・教育内容・授業評価用法を確立し、「見える化」を通して教育改善を推進することです。

第二は、「学修者本位の教育」の実現に向けた意識改革です。

第三は、次世代の教育へのチャレンジとして、試行的な取組の奨励と成果の共有です。

### アカデミック・セントラルの役割

アカデミック・セントラルの役割は大きく二つにわけられます。

第一は、各大学の自立性を尊重しながら機構の枠組みを活かした教育資源・成果の共有を進

め、互いのメリットを活かした教育改革を推進することです。

第二は、機構全体の教育の共同基盤整備の企画立案、両大学に共通する人材育成の企画立案を行うことです。

これらの役割を果たすため、3つの重点推進施策を推進します。

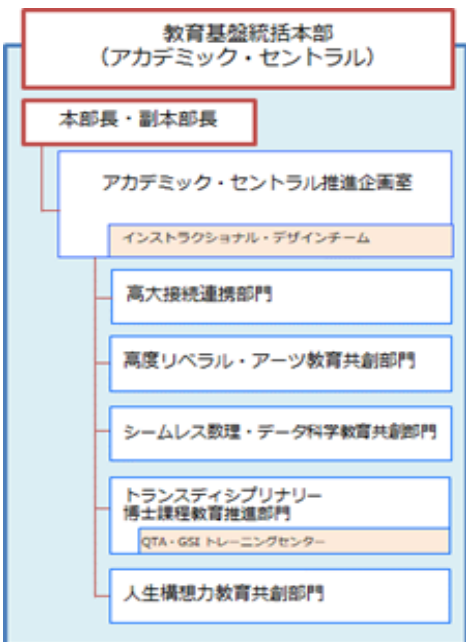
第一は、「学修者本位の教育」を実現するため、教育体系・教育内容・授業評価用法を確立し、「見える化」を通して教育改善を推進することです。

第二は、「学修者本位の教育」の実現に向けた意識改革です。

第三は、次世代の教育へのチャレンジとして、試行的な取組の奨励と成果の共有です。

アカデミック・セントラルの組織

アカデミック・セントラルには、本部長・副本



部長の下にアカデミック・セントラル推進企画室（以下「推進企画室」という。）があり、アカデミック・セントラルの活動方針、活動計画を策定します。推進企画室の中には、インストラクショナル・デザインチームがあり、推進企画室で決定された活動計画に沿って実施方針について検討します。

推進企画室で決定された活動方針、活動計画を実現するために、5つの部門があります。高大接続連携部門、高度リベラル・アーツ教育共創部門、シームレス教育、英語等のコア・ベーシック教育の推進をすすめます。シームレス数理・データ科学教育共創部門は、機構における教養教育から学部専門教育、大学院教育までシームレスな数

理・データ科学教育を推し進めます。トランスディシプリナリー博士課程教育推進部門は、大学院生に対し、グローバルにその能力を発揮させるために、自分の専門領域の深い学識と卓越した能力に加えて、関係者との協働ネットワークを創造発展させる能力の育成をすすめます。また、トランスディシプリナリー博士課程教育推進部門の中には、QTA・GSI トレーニングセンターがあります。人生構

想力教育共創部門は、大

学・地域・社会・産業界を構成する人材すべてを育てる新たな教育の実施を計画します。

### 融合フロンティア

#### 次世代リサーチャー

10月より「融合フロンティア次世代リサーチャー制度」を開始しました。本プロジェクトは、アカデミック・セントラルのトランスディシプリナリー博士課程教育推進部門が運営している

7名を採用しました。本事業では、世界・日本が直面する様々な課題を解決するとともに、将来の知識基盤社会を先導する博士人材の育成を目的としています。博士後期課程学生は、すでに研究の最前線に立ち、大学の研究を根底から支えています。本事業では、優秀な学生に経済的支援を行うこと、また企業等で求められるスキルを身につけるコー

「データ科学基礎」は、就職等への不安を払拭し、研究に専念できる環境を用意します。それに加えて、専門の異なる博士課程学生や価値観の異なるメンター、さらにはロールモデルとなるリーダーや大学院の修了生などとの交流の機会を設けることで、自身の発想に基づく新たな研究展開や融合研究の創出を促します。

### 融合フロンティア次世代リサーチャー

#### 募集分野

- (1) バイオサイエンス分野
- (2) 革新的学際分野
- (3) 脱炭素・環境分野
- (4) グローカル推進分野

#### データ科学基礎講義内容

- 1. データサイエンスへの導入
- 2. データの取得・管理
- 3. コンピュータリテラシーデータの記述と可視化
- 4. 分散・標準偏差、相関係数
- 5. 確率変数と確率分布
- 6. 母集団と標本
- 7. 統計的推定と検定

#### データ科学基礎演習

- 1. 情報のデジタル表現
- 2. データ構造とアルゴリズム
- 3. プログラミング(初級) プログラミング
- 4. 線形回帰モデル、最小二乗法、等

データ科学科目の開講

アカデミック・セントラルのシームレス数理・データ科学教育共創部門では、2022年度より、共通教育科目における必修科目「データ科学基礎」と選択科目「データ科学基礎演習(A/B)」を提供します。岐阜大学においては、名古屋大学の教材を活用して、同様の科目を開講します。

#### 単位互換科目の開講

2022年度より、高度リベラル・アーツ教育共創部門では、名古屋大学と岐阜大学との間で単位互換科目を開講し

#### 編集委員会

編集長 藤巻 朗 副編集長 福井 博一

#### 編集委員

安部 有紀子、加藤 真紀、北 栄輔、清島 絵利子、古泉 隆、瀨瀬 守、児玉 英明、小松 雅宏、齋藤 芳子、白村 直也、廣内 大輔、益川 浩一、松井 真弓、丸山 和昭、山田 敏弘、山里 敬也